テクニカルデータ

赤外線マイクロホン：ATIR-T88(ATCS 仕様)

型式　：バックエレクトレットコンデンサー型
指向特性　：単一指向性
赤外光波長　：870±30nm
発振方式　：PLL シンセサイザー方式
周波数特性　：100 ～ 15,000Hz
変調方式　：FM 周波数変調
搬送波周波数：A チャンネル・2.38MHz
：B チャンネル・2.66MHz
：C チャンネル・3.18MHz
：D チャンネル・2.60MHz
：E チャンネル・2.60MHz
バッテリー　：専用ニッケル水素充電池（本体に実装済み）、
または単 3 形アルカリ乾電池 ×2
連続使用時間：ECO 時 約 11 時間（1900mAh ニッケル水素充電池使用時）
約 10 時間（単 3 形アルカリ乾電池使用時）
LO 時　約　7 時間（1900mAh ニッケル水素充電池使用時）
約　6 時間（単 3 形アルカリ乾電池使用時）
HI 時　約　4 時間（1900mAh ニッケル水素充電池使用時）
約　3 時間（単 3 形アルカリ乾電池使用時）
＊連続使用時間は **BC700** で充電完了時の目安です。
外形寸法　：φ59×262mm（ヘッド径 × 全長）
質量　：約 292g（電池含む）
●付属品　：CH シール、ミニドライバー

赤外線 2 ピースマイクロホン：ATIR-T85(ATCS 仕様)

型式　：エレクトレットコンデンサー型
指向特性　：単一指向性
赤外光波長　：870±30nm
発振方式　：PLL シンセサイザー方式
周波数特性　：150 ～ 12,000Hz
変調方式　：FM 周波数変調
搬送波周波数：A チャンネル・2.38MHz
：B チャンネル・2.66MHz
：C チャンネル・3.18MHz
：D チャンネル・2.60MHz
：E チャンネル・2.60MHz
バッテリー　：専用ニッケル水素充電池（本体に実装済み）、
または単 3 形アルカリ乾電池 ×2
連続使用時間：ECO 時 約 11 時間（1900mAh ニッケル水素充電池使用時）
約 10 時間（単 3 形アルカリ乾電池使用時）
LO 時　約　7 時間（1900mAh ニッケル水素充電池使用時）
約　6 時間（単 3 形アルカリ乾電池使用時）
HI 時　約　4 時間（1900mAh ニッケル水素充電池使用時）
約　3 時間（単 3 形アルカリ乾電池使用時）
＊連続使用時間は **BC700** で充電完了時の目安です。

ATIR-T85
外形寸法　：H60×W120×D23mm（ベルトクリップ除く）
質量　：約 118g（電池含む）

ATIR-M85
外形寸法　：H88.5×W28×D23mm
コード　：φ3.5、1.0m長
プラグ　：ミニ＋ミニミニL型プラグ
質量　：約 48g（タイピンクリップ含む）
●付属品　：CH シール、ミニドライバー

audio-technica
株式会社 オーディオテクニカ
http://www.audio-technica.co.jp

ATCS-C60 設定のしかた

※会議システム (ATCS-60) の使いかたは、会議システム付属のマニュアルをご覧ください。

1.ATCS-C60 のフロントパネルにある TEST スイッチにて、ATIR-T88 または ATIR-T85 のマイク数と使用チャンネルを設定します。
2.ATCS-C60 の PRIORITY スイッチにて、使用チャンネルに応じたプライオリティ数 (優先数) を設定します。

※設定を反映するために SET ボタンを押すか、ATCS-C60 を再起動してください。

使用チャンネル	TESTチャンネル	PRIORITY 先押し (後押し)
A	3	1以上(6 以上)
B	4	2以上(7 以上)
A+B	5	2以上(7 以上)
B+C	6	3以上(8 以上)
A+B+C	7	3以上(8 以上)

注意 :ATCS-C60 のプライオリティ設定と使用チャンネルが異なった場合は、ATIR-T88 または、ATIR-T85 を使用することはできません。ATCS-C60MAG を使用する場合、モード変更画面の優先マイク数の設定にて、使用チャンネルに応じたプライオリティ数 (優先数) を設定します。

※ATCS-C60MAG を使用する場合、ATCS-C60 の PRIORITY スイッチの設定は無効になります。
ＭＡＧのプライオリティ設定と使用チャンネルが異なった場合は、ATIR-T88 または、ATIR-T85 を使用することはできません。

【例】

設定			動作
使用チャンネル	プライオリティ設定		
A	1	⇒	A チャンネルが使用可能
B	1	⇒	プライオリティ設定値が小さいため使用できません
A+B	3	⇒	A チャンネルと B チャンネルが使用可能
B+C	2	⇒	プライオリティ設定値が小さいため使用できません

故障かな？と思ったら

●マイクロホンの電源が入らない
→ 電池は入っていますか？
→ 充電式電池は充電されていますか？
→ 電池の極性は正しいですか？

●音声が出ない
→ 接続した機器のボリュームを絞りきっていませんか？
→ ATIR-T85 の場合、マイクロホンがトランスミッターの入力端子にしっかり差し込まれていますか？
→ ATCS-C60 の TEST、PRIORITY スイッチの設定、ATCS-C60MAG の設定等は正しいですか？

●フル充電しても直ちに電池がなくなってしまう
→ メモリー効果を起こしている可能性があります。一度使い切ってからまた充電してください。

上記の操作をしても改善されない場合は、充電式電池の寿命 (約 750 回充電が目安です) と思われます。新しい充電式電池と交換してください。

製品保証および修理などにつきましてはお買い上げのお店、または別紙記載の弊社営業所までお問い合わせください。

1423135700

audio-technica

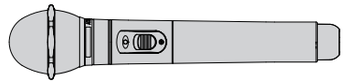
取扱説明書

赤外線会議システムプレゼンター用マイクロホン

共通特長

- 本マイクロホンは、赤外線会議システム **(ATCS-60)** 専用のプレゼンター用マイクロホンです。
- 電波を使わない赤外線伝送方式です。隣接した部屋との混信の心配がありません。
- 会議ユニット **ATCS-M60** と同時に使用でき、本マイクロホンは最大 3 本まで使用できます。
- 使用する部屋の大きさに合わせて、赤外線出力を 3 段階 **(ECO/LO/HI)** に切り替えられる省電力タイプ。**(ECO** 時は約 11 時間連続使用可能**)**

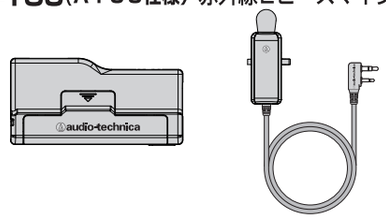
ATIR-T88(ATCS仕様) 赤外線マイクロホン



特長

- 赤外光発光部をグリップ上部と下部に設け、安定した送受信を実現。
- 高音質・高感度のコンデンサーマイクユニット搭載。

ATIR-T85(ATCS仕様) 赤外線2ピースマイクロホン



特長

- ラベリア型マイクロホンで会議の司会や講習会などの講師用に最適。
- 持ち運びに便利な軽量コンパクトサイズ。
- 簡単に装着できるタイピンクリップ付きで取り付け角度も調整可能。
- トランスミッターはベルトにクリップ可能。
- 高音質・高感度のコンデンサーマイクユニット搭載。

安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

⚠ 危険	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。
⚠ 警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
⚠ 注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本体について

⚠ 警告

- **本製品に異物(燃えやすい物、金属、液体など)を入れない**
感電、故障や火災の原因になります。
- **同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない**
事故や火災の原因になります。
- **異常に気付いたら使用しない**
異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあったら、お買い上げの販売店か弊社営業所に修理を依頼してください。
- **分解や改造はしない**
感電、故障や火災の原因になります。
- **強い衝撃を与えない**
感電、故障や火災の原因になります。
- **濡れた手で触れない**
感電やけがの原因になります。
- **水をかけない**
感電、故障や火災の原因になります。
- **布などで覆わない**
過熱による火災やけがの原因になります。

お買い上げありがとうございます。ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

本体について (つづき)

⚠ 注意

- **直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない**
故障、不具合の原因になります。
- **火気に近付けない**
変形、故障の原因になります。
- **ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない**
変形、故障の原因になります。

電池について

⚠ 危険

- **電池の液が目に入ったときは目をこすらない**
すぐに水道水などのきれいな水で充分に洗い、医師の診察を受けてください。
- **電池の液が漏れたときは素手で液を触らない**
■液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。電池が液漏れを起こした場合は、弊社営業所までご相談ください。
■万一、なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、医師の診察を受けてください。
■皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

- **火の中に入れない、加熱、分解、改造しない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- **釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない**
発熱、破損、発火の原因になります。
- **幼児の手の届く所に置かない**
電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。窒息や内臓への障害の恐れがあります。
- **電池は (+)(−) を逆に入れない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- **硬貨やカギなど金属製のものと一緒の場所に置いたり、電池の (+)(−) を接続しない**
ショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- **新しい電池と一度使用した電池、銘柄や種類の違う電池を混ぜて使用しない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- **乾電池は充電しない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- **使い切った電池はすぐに取り出す**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- **長期間使用しない場合は電池を取り出す**
液漏れによる故障の原因になります。

⚠ 注意

- **落下させたり強い衝撃を与えない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- **以下の場所で使用、放置、保管しない**
■直射日光の当たる場所、高温多湿の場所
■炎天下の車内
■ストーブなどの熱源の近く
液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。
- **水に濡らさない**
発熱、破裂、発火の原因になります。
- **指定の充電器、ACアダプター以外で充電しない**
故障、火災の原因になります。
- **外装ラベルがはがれた電池は使用しない、ラベルをはがさない**
ショート状態になりやすく、液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- **変形させたりハンダ付けしない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- **保管、廃棄の場合は端子(金属部分)をテープなどで絶縁する**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- **機器を使用したあとは必ずスイッチを切る**
液漏れの多くは、スイッチの切り忘れによる電池の消耗が原因です。
- **指定の電池以外使用しない**
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
- **使用済みの電池は自治体の所定の方法で処分する**
環境保全に配慮してください。

■充電式電池のリサイクルについて

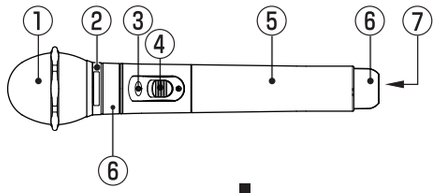
Ni-MH

充電式電池はリサイクルできます。不要になった電池は、充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。充電式電池の回収・リサイクル協力店については、社団法人電池工業会ホームページ (http://www.baj.or.jp)をご覧ください。

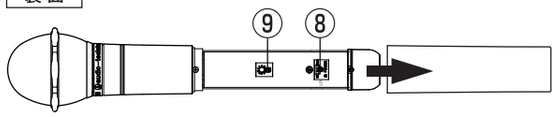
赤外線マイクロホン　ATIR-T88(ATCS 仕様)

各部の名称と機能／使いかた／電池の入れかた

正面



裏面



①**ヘッドケース**
②**銘板**　必要に応じて付属のCHシール等を貼ります。
③**電源インジケーター**　電源を入れると電池の残量を表示します。
点灯 (グリーン)　：使用可能
点灯 (レッド) または 無点灯　：充電してください
④**電源スイッチ**　ON側にスライドさせると電源が入ります。
⑤**グリップ**
⑥**赤外光発光部**　上下 2 カ所に赤外光発光 LED が内蔵されています。
⑦**充電端子部**　充電器に差し込む接点部分です。

⚠ 本機は内蔵の充電式電池を使用するのが原則ですが、緊急の場合、単3形アルカリ乾電池2個でも使えます。その場合、電池残量表示は正しく表示されません。また、アルカリ乾電池を使用するときは絶対に充電しないでください。

＊電源インジケーターが点灯 (レッド) 表示ですと受信範囲が狭くなり、ノイズの混入や途切れが発生する場合があります。

⑧**赤外線出力切り替えスイッチ** (出荷時：LO)
ECO：出力小　　LO：標準　　HI：出力大
※HI 出力の場合は、使用時間が短くなりますのでご注意ください。
⑨**チャンネル切り替えスイッチ** (出荷時：A)
使用するレシーバーのチャンネルに合わせてください。

チャンネル対応表

A	ATCS-60	Ach
B	ATCS-60	Bch
C	ATCS-60	Cch
D	ATCS-50	Ach
E	ATCS-55	Ach

※A～E 以外のチャンネルに設定すると電源インジケーターがレッド・グリーンの点滅になり動作しません。

⚠ 使用上の注意

- マイクロホンの電池残量表示 (電源インジケーター) は、あくまでも一つの目安としてご利用ください。
  また、電池残量表示は純正の充電式電池以外対応しておりませんので必ずマイクロホン専用の充電式電池をご利用ください。
- ご購入直後の 1 回目の充電およびマイクロホンの電源スイッチをオンにしたままで長期間放置され過放電になっている場合は、1 回の充電で充分に充電されない場合がありますので 2 回充電するようにお願いいたします。
- 過放電の状態によっては電池をいため使用不能になる場合もありますので、マイクロホンの電源インジケーターが消灯したらすぐにマイクロホンの電源スイッチをお切りください。
- 市販の単 3 形乾電池を使用した場合、マイクロホンの電池残量表示は正しく表示されませんのでご注意ください。
- 電池の極性を逆に入れた場合、故障の原因になります。
- マイクロホンの赤外光発光部およびレシーバーの受光部は手で覆わないでください。また発光部と受光部との間に仕切りや障害物があるとノイズが混入したり、聴こえなかったりする原因になります。
- マイクロホンの赤外光発光部を強く握ったりひねったりしないでください。故障の原因となることがあります。

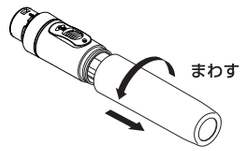
■使いかた

＊接続する機器の取扱説明書を併せてお読みください。
①マイクロホンを充電します。(専用別売充電器 BC700 使用)
②マイクロホンの電源を入れます。
③マイク音量はお手持ちの機器やレシーバーのボリュームで調整します。

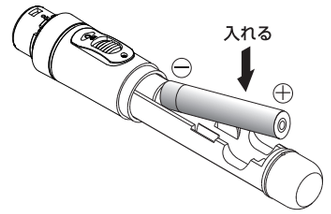
■電池の入れかた

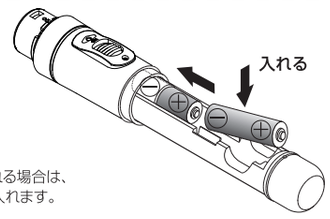
1 電源をオフにします。

2 グリップを反時計方向に回し、外します。



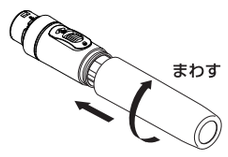
3 ニッケル水素充電池は、⊖ 側から先に差し込み入れます。





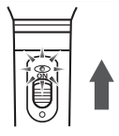
＊単3形乾電池を入れる場合は、1本ずつ⊖側から入れます。

4 グリップを本体にはめ込み、時計方向に止まるまで回します。



5 電源スイッチをオンにし、電源インジケーターが点灯すれば正常です。

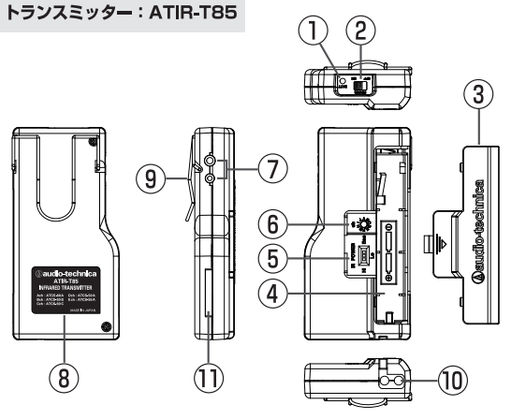
＊電源インジケーターが点灯 (レッド)、または無点灯のときは電池が消耗しています。
充電するか乾電池を新品に交換してください。



赤外線2ピースマイクロホン　ATIR-T85(ATCS 仕様)

各部の名称と機能／使いかた／電池の入れかた

トランスミッター：ATIR-T85



①**電源インジケーター**　電源を入れると電池の残量を表示します。
点灯 (グリーン)　：使用可能
点灯 (レッド) または 無点灯　：充電してください
②**電源スイッチ**　ON側にスライドさせると電源が入ります。
③**バッテリーカバー**
④**バッテリーケース**
⑤**赤外線出力切り替えスイッチ** (出荷時：LO)
ECO：出力小　　LO：標準　　HI：出力大
※HI出力の場合は、使用時間が短くなりますのでご注意ください。
⑥**チャンネル切り替えスイッチ** (出荷時：A)
使用するレシーバーのチャンネルに合わせてください。

チャンネル対応表

A	ATCS-60	Ach
B	ATCS-60	Bch
C	ATCS-60	Cch
D	ATCS-50	Ach
E	ATCS-55	Ach

※A～E 以外のチャンネルに設定すると電源インジケーターがレッド・グリーンの点滅になり動作しません。

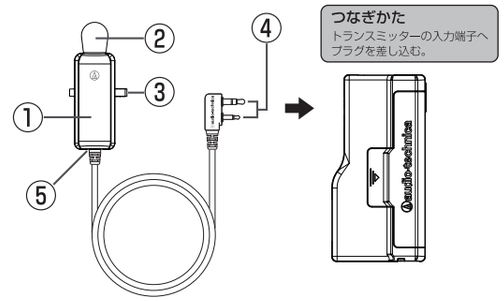
⑦**音声入力端子A+光用出力端子B**　付属のマイクロホンのプラグを差し込みます。
⑧**定格シール**
⑨**ベルトクリップ**　ベルトなどに差し込みます。
⑩**充電端子部**　充電器に差し込む接点部分です。

⚠ 本機は内蔵の充電式電池を使用するのが原則ですが、緊急の場合、単3形アルカリ乾電池2個でも使えます。その場合、電池残量表示は正しく表示されません。また、アルカリ乾電池を使用するときは絶対に充電しないでください。

＊電源インジケーターが点灯(レッド)表示ですと受信範囲が狭くなり、ノイズの混入や途切れが発生する場合があります。

⑪**CHシール貼付位置**　必要に応じて付属のCHシール等を貼ります。

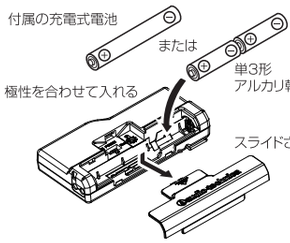
マイクロホン：ATIR-M85



①**赤外光発光部**　赤外光発光LEDが内蔵されています。
②**マイク**　音声入力用のマイクロホンが内蔵されています。
③**タイピンクリップ**　マイクロホンの固定用クリップです。
縦横に45°向きを変えて固定することができます。
④**接続プラグ(ミニ+ミニミニL型プラグ)**
トランスミッターの入力端子に接続します。コード長さは、約1mです。
⑤**φ3.5マイク入力端子(プラグインパワー)**
差し込むと内蔵マイクが切れます。

■電池の入れかた

①**電源をオフにします。**
②**バッテリーカバーの天面のⒶaudio-technicaロゴ上部の▽を親指で押さえ、スライドさせると開きます。**



③**付属の充電式電池、または単3形アルカリ乾電池をバッテリーケース内の極性に合わせて入れます。**
④**バッテリーカバーを取り付けて完了です。**

■使いかた

＊接続する機器の取扱説明書を併せてお読みください。
①**トランスミッターを充電します。(専用別売充電器BC700使用)**
②**付属のマイクロホンをトランスミッター本体の入力端子に接続します。**
③**マイクロホンのタイピンクリップで、胸部中央に取り付けます。**
(このときマイクロホン発光部が体と反対側に向くように取り付けてください。)
④**トランスミッターの電源を入れます。**
⑤**マイク音量はお手持ちの機器のボリュームで調整します。**

⚠ 設置上の注意

- 受光ユニットが高感度なため直射日光の射し込む場所などでは、ノイズを発生することがあります。その場合はカーテンなどで窓を覆ってください。
- 振動、衝撃の多い場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがの原因になることがあります。
- 受光ユニットを照明器具の近くやスポットライトの光があたる場所に設置しないでください。
- 赤外線の到達距離は、天井や壁の色や材質によっても変化する場合があります。
- 到達距離とは無関係にノイズが発生する場合があります。その場合には適切な場所に受光ユニット、レシーバーを設置してください。
- 天井に受光ユニットを設置する際は、窓または壁から少なくとも2～3m離して設置してください。
- 壁に受光ユニットを設置する際は、天井から少なくとも2～3m離して設置してください。
- 受光ユニットは、蛍光灯から50cm以上離して設置してください。
- 音声ケーブル・受光ユニットケーブルの配線上に大型電気機器がある場合に、ノイズが発生する可能性があります。
- プラズマディスプレイ、同時通訳システムなど赤外線を使用した機器とは、同時使用できない場合があります。
- その他下記の赤外線発生源の近くに受光ユニット、レシーバーを設置すると、システムの動作不良やノイズが発生する原因となる可能性があります。
  また、マイクロホンについても同様に赤外線やノイズの発生源に近づけないように注意してください。
  - 照明装置
  - プロジェクター(液晶やDLPなど)、OHP、白熱電球など
  - 水銀灯、ハロゲン灯、インバータ式蛍光灯、ブラックライト
  - プラズマディスプレイ
  - リモコン、赤外線マイク、赤外線LANなどの赤外線機器
  - 調光器
  - デジタルパワーアンプなどの、デジタル機器およびその配線
    (デジタルパワーアンプのスピーカー出力配線など)